

## 聖靈に逆らう罪

マタイによる福音書一二章 22～37節

人の子に言い逆らう者は赦される。しかし、聖靈に言い逆らう者は、この世でも来るべき世でも赦されることはない。(32)

主イエスが盲目で口のきけない人を癒されたとき、ファリサイ派の人々はそのみわざを怪しみ、イエスを悪霊の頭だと言い、その奇蹟はイエスとサタンの共謀によるものだと言いました。そのような彼らの偏見に満ちた態度を見て、主イエスは彼らを断罪しました。「聖靈に言い逆らう者は、この世でも来るべき世でも赦されることはない」。主イエスがこれほどまでに厳しく非難されることはまれなことです。彼らの罪はそれほど重大であるということ。「聖靈に言い逆らう罪」とは、神のみわざであると分かるのに、神の御靈に対して故意に目を覆い、それをサタンのわざだと言い張る態度を指しています。そのように強情な心で神に逆らい続けるなら、その人は神に完全に捨てられるということです。今も働き続ける聖靈の語りかけに素直に聴く者たちでありたいと思います。